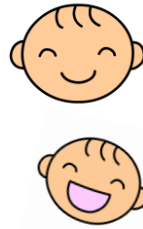


にゅうようじきょういくそうだんつうしん ひなたぼっこ



2葛盲第611号
令和2年9月23日
乳幼児教育相談通信第6号
東京都立葛飾盲学校長 忍
田 島

日頃より、本校の教育について御理解いただきまして、ありがとうございます。

2学期の相談を開始して早1か月が過ぎました。感染症対策の観点より、事前予約制による個別相談、グループ相談を行っております。今後とも、御理解・御協力いただけますよう、よろしくお願いいたします。

なお、前号でお知らせの通り、本年度は、例年通りの育児教室の開催が難しくなっております。そのため、本誌上において、見えない・見えにくいお子さんの子育てに関する情報の提供を行っていきます。今号では、小さなお子さんの「歩行」について考えていきます。どうぞ、参考になさってください。

(文責：丹羽弘子)

★ 個別相談は、事前予約制とさせていただきます。1回の相談時間は1時間です。御希望に応じて、視機能や発達に関する評価も実施いたします。

★ グループ相談については、密を避けるために、1回につき3組の親子までの定員制とさせていただきます。前週の金曜から前日の木曜までに事前の御連絡をお願いいたします。参加親子が3組を超えた場合は、先着順とさせていただきます。

★ 御来校の際には、御自宅での検温（親子とも）、マスクの着用（保護者の方は必ず・お子さんはできる限り）をお願いいたします。幼稚部保育室、幼稚部前庭以外の場所への移動は、原則お控えください（校内見学の御希望については御相談ください）。

～見えない・見えにくいお子さんの「歩行」について～

〈盲学校における「歩行指導」〉

見えない・見えにくい人の生活を考える時、視覚からの情報が得られにくい、という実態が挙げられます。視覚より情報が得られにくいことにより「文字の読み書きが難しい」「安全な移動が難しい」・・・大きく、この2つの困難が生じます。この困難の軽減・克服のために、見えない・見えにくい子供たちへの教育を行う盲学校では、重点的に「点字指導／視覚補助具の指導」「歩行指導」の指導が行われてきました。本稿では、そのうちの「歩行指導」について、幼児期のお子さんに照らして考えていきたいと思います。

〈自立に欠かせない「歩行」の力〉

お子さんが成人した姿を思い浮かべてみましょう。何らかの仕事に就くなど、社会的な参加をする生活を成り立たせるためには、白杖（視覚障害者用の白い杖）や盲導犬を使って、仕事を行う場所まで安全に通う力がなければなりません。

白杖は、視覚障害者が進もうとする前方の障害物を察知するための道具です。その人の見えにくさに応じて、常に左右に振って前方の安全を確認する方法と、ある程度、視力で環境の把握が可能な場合にはシンボルとして持ち、段差などの確認のために適宜使用する方法があります。

また、盲導犬と歩くという方法についてです。犬自体に道順の理解はありません。ユーザーの「right（右）」「bridge（階段）」「gate（改札）」などの指示で、犬はその通りに動きます。道順はユーザーの頭の中にあり、歩行の主体者はユーザーです。盲導犬は、白杖の替わりと考えることもできます。盲学校の小学部より行うのは、白杖を使用した歩行です。

〈「動きたい」気持ちを支えるお部屋作り〉

では、小さいお子さんに話を戻しましょう。お子さんが、つかまり立ちから伝い歩きができるようになってきたら、お家の中は、ぶつかったり、つまずいたりしないよう、足元や頭の高さのあたりが危なくないようにし、安心して自由に動ける環境を作りましょう。できるだけ、同じ場所に同じものがあるようにして、自分と物との位置関係を分かりやすくすることが大切です。「動いた」→「楽しいことがある場所に行けた」…この実感の積み重ねが、「もっと動きたい」気持ちを支えて、どんどん探索歩きが増えていきます。

〈いつでも、どこでも、誰とでも、外歩きができる力〉

お家の中や、いつも通っている保育室の中では、自分で自由に動けるようになることが大事。では、屋外を歩く場合は、どうでしょう。屋外では、大人と一緒に歩きます。

慣れた屋内とは違い、屋外は空間が広がっており、見えない・見えにくいお子さんにとって、見通しのもちにくい、ちょっと怖い環境です。お子さんが、嫌がったり、「抱っこ」を求めたりするのも無理のないことです。お子さんが一番安心できる身近な大人が、お子さんの手をしっかりつないで、手から手へ「大丈夫ビーム」を伝えながら、少しの距離を少しずつ歩いていくようにしましょう。目的地が、お子さんの好きなブランコがある公園だったり、お子さんの好きな音声ボタンのある信号だったりすると、歩く意欲につながります。目的地までの道々では、「今、コンビニの前だよ」「向こうから自転車が近づいてくるよ」など、お子さんにその様子が伝わるように話しかけてあげてください。

幼児期の歩行で大切なことは「いつでも、どこでも、誰とでも」歩けるようになることです。この力が小学生以降の歩行の力に直接的にリンクしていきます。

外歩きに慣れてきたら、介助歩行の基本的なフォームを身に付けましょう。手と手をしっかりつなぐのではなく、お子さんが介助者の手首を軽くつかんで一緒に歩くフォームです。このフォームは、介助者は歩く方向を示す役割で、歩行の主体は視覚障害者自身であることを示しています。

10月のグループ相談の活動内容を以下のように計画しております。時間は、午前10時から11時半です。内容は、施設、素材、天候などによって、変更することもありますので、御了承ください。

グループ相談（いちご組）



期日	曜日	内容	場所	ひとこと
10月2日	金	外あそび	幼稚部前庭	外気に触れて体を動かしましょう／お気に入りの遊具で遊びましょう。
10月9日	金	光・風あそび	(校内・参加人数により調整)	ブラックライトの光や送風機の風などの感触を味わってみましょう。
10月16日	金	おさんぽ	綾南公園	外気に触れて体を動かしましょう／お気に入りの遊具で遊びましょう。
10月23日	金	新聞紙あそび	幼稚部リズム室	新聞紙のにおいや感触を味わってみましょう。／手を使ってみましょう。
10月30日	金	いもほり体験	小学部畑	おいもやつるの感触を味わって、おいもほりを体験してみましょう。



【連絡先】 東京都立葛飾盲学校 tel : 03-3604-6435 fax: 03-3602-9096
担当：丹羽（にわ）弘子